



横浜市福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
横浜市
洋光台第二保育園

平成 28 年 3 月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	8
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	11
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	12
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	13
評価領域Ⅵ 経営管理.....	14
利用者家族アンケート分析.....	15
利用者本人調査.....	19
事業者コメント.....	21



実施概要

事業所名	横浜市洋光台第二保育園
報告書作成日	平成 28 年 3 月 14 日 (評価に要した期間5カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

*評価方法

1. 自己評価 【実施期間：平成 27 年 10 月 13 日～12 月 14 日】
 - ・ 正規職員・嘱託職員・アルバイト職員の 3 グループに分け、第三者評価の意義、自己評価の方法を説明した。
 - ・ 全ての職員がイメージする「園目標に掲げているこども像」をそれぞれが書き出したあと、話し合いを行い、園が目標としている「こども像」について確認した。
 - ・ 領域ごとにグループで話し合いを持ち、まとめていった。
 - ・ 各グループがまとめたものを項目ごとに、工夫事例も含めて確認し、一つにまとめた。
2. 利用者家族 アンケート調査 【実施期間：平成 27 年 11 月 16 日～11 月 30 日】

配 付：全園児の保護者（103 家族）に対して、園から手渡しした。

回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
3. 訪問実地調査 【実施日：平成 28 年 2 月 8 日、2 月 9 日】
 - 第 1 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長、主任）
 - 第 2 日目
 - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
 - 午 後：職員ヒアリング調査
(主任・リーダー保育士 3 名・育児支援担当保育士 1 名
アルバイト保育士 1 名・看護師 1 名・調理職員 1 名)
事業者面接調査（園長、主任）
4. 利用者本人調査 【実施日：平成 28 年 2 月 8 日、2 月 9 日】
 - ・ 訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子などを観察。
 - ・ 乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間などに適宜聞き取り調査を実施。



評価結果についての講評

【施設の概要】

横浜市洋光台第二保育園は JR 京浜東北・根岸線洋光台駅から住宅街の中を歩いて5分ほどのところにあります。近くには自然豊かな公園が複数あり、子どもたちの散歩コースとなっています。昭和 54 年（1979 年）6月に横浜市によって設立されました。

園舎は軽量鉄骨の平屋建てで、窓が大きく陽光を十分に取り入れることができます。広々とした園庭には、砂場や鉄棒、滑り台、プールなどがあり、花壇やプランターで子どもたちが季節の花や野菜を育てています。

定員は 109 名（産休明け～5歳児）で、開園時間は7時～19時、土曜日は7時半～16時半です。

園の基本理念は「子どもの最善の利益を守る（一人ひとりの子どもたちが、自分を「かけがえのない」存在と感じ、自信を持って生きて行かれるように）」、保育目標は「心豊かな子」「健やかな子」「自分で考え行動できる子」です。

1. 高く評価できる点

●子どもたちはさまざまな経験を重ね、のびのびと園生活を楽しんでいます

保育士は、子どもの声に耳を傾け、子どもの様子やしぐさ、態度などを観察し、子どもの関心や興味を拾い上げ保育に活かしています。子どもが興味を示した絵本や遊びを集団遊びに発展させ、それを製作や行事に取り入れています。子どもが好きな絵本をテーマに、お楽しみ会やクリスマス、節分にまでつなげていくなど、子どもの興味を年間を通した活動につなげています。このような経験を重ねることで、年長児になると自分たちで話し合って行事の内容などを決めることができます。ゲーム性のある遊びも盛んで、ドッジボールや鬼ごっこでは、チームで作戦を考え協力して取り組む姿も見られます。

また、異年齢活動の保育計画を作成し、積極的に取り組んでいます。園庭遊びやリズム遊びでの交流のほか、3、4、5歳児は縦割りの「なかよしグループ」を作って、行事の準備を行い、ゲームや会食を楽しむ機会を設けています。このような取組の結果、園庭では、ドッジボールのルールや技を5歳児が4歳児に教えたり、保育室に戻りたくない乳児を幼児が保育室まで送って行ったりする姿などを見ることができます。

地域の高齢者施設訪問や、近隣の小中学校・保育園との交流、公園清掃に参加する等、子どもたちはさまざまな経験を重ね、のびのびと園生活を楽しみ、成長しています。

●自己の保育を振り返るさまざまな取組があり、保育に活かされています

保育士は、目標共有シートを用い年度初めに目標を設定し、年度末に自己評価をしています。また、カリキュラム会議や乳児・幼児会議で保育の内容が保育理念や基本方針に沿っているかを常に振り返り、話し合っています。主任をリーダーとする研修担当者が計画する園内研修では、エピソード研修（何に重点を置いて日誌を書くかの事例検討会）などを取り上げています。現場に即した研修は、自己の実践を整理し振り返る機会となっています。外部研修に参加した保育士は研修報告書を作成し職員会議などで報告しています。研修報告書の書式にも今後の職務に活かせる点を記入する欄があり、保育士が研修を振り返り学んできたことをすぐに保育現場に反映できるようになっています。

磯子区の公立保育園4園で、園長がお互いにほかの園の環境を見合う巡視や合同で行う主任研修があり、他園の事例を職員会議やミーティングで報告し、改善につなげています。また、園内研修として、福祉員が日中のクラスの保育に入ったり、年度末に保育士が新しく担任となるクラスを担当する機会を作り、お互い

に意見や感想を伝えあうことで、互いの保育を見直す機会を作っています。

また、園内研修、健康管理、個人情報管理、食育担当などの運営業務分担が決まっています。常にチームで検討する仕組みがあります。チームは保育士、看護師、調理職員、福祉員、アルバイト等、異なる職種や年代の職員で編成し、さまざまな経験や視点が活かされるように工夫されています。

このようにさまざまな機会を通して、保育士は自分たちの保育を振り返り、目指す保育の実現を目指しています。

●地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます

園は、横浜市磯子区の育児支援センター園として地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます。

子育て支援として、園庭開放、室内開放、交流保育、絵本貸し出し、給食体験、プレママパパ体験、育児講座、育児相談、赤ちゃん教室などを行っています。ホール開放は水曜日～金曜日を実施し、お弁当持参で過ごすことができ、就園前の親子に人気があります。また、区内のほかの保育園と連携で育児講座を実施したり、出前講座や育児支援者向けの講座なども実施しています。

一時保育は、専任の保育士を配置し、非定型、リフレッシュ、緊急をクラスの中で受け入れていて、ほぼ毎日利用があります。

2. 独自に取り組んでいる点

●食育の取組を工夫し、子どもたちの食への関心を引き出しています

園では、食育を担当している保育士と調理職員が一つのチームとなって食育活動を行っています。食育計画に沿って、野菜の栽培やクッキング等、子どもたちが生活と遊びの中で意欲的に食べることを楽しめるようなさまざまな取組を行っています。

昨年度は、テーマを「共食共感」とし、「食材・調理方法について学ぶ」と「食べるのが好きになる」をねらいとして、出汁体験、調理法教室、乳児向けには食材を見せたり切ったりする食材体験、幼児向けには、食育集会などを行っています。食育集会では、給食食材納入業者を取材し、ビデオで子どもたちに紹介したり、子どもたちへの食材クイズを盛り込んで食育担当職員が寸劇を行いました。キャラクターを設定したり、オリジナルの食育ソングを作って用いたりし、子どもが楽しみながら食について学べるように工夫されています。

このような取組を通し、子どもたちは、食への関心を深めるとともに、食には多くの人たちが携わっているという社会の仕組みや環境を大切にすることなど多くのことを学んでいます。

3. さらなる工夫が望まれる点

●園の取組への保護者の理解を深めるためのさらなる工夫が期待されます

園では、入園説明会や懇談会などで園の方針や取組について説明するとともに、園だよりや連絡帳で保護者に情報提供しています。保育士は日々保護者とコミュニケーションを取り、子どもの様子について情報交換しています。また、行事後にはアンケートを実施し、保護者の意見・要望の把握に努めています。

ただし、このような園の取組にも関わらず、今回の保護者アンケートでは必ずしも園の取組が保護者に伝わっていないと思われる記述も見られ、保護者への情報発信方法について、さらなる工夫が望まれます。また、保護者から要望がでていいる個人面談や不審者対応などについて、園の体制を見直すとともに、保護者に園の方針について分かりやすく説明することが期待されます。



分類別評価結果



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅰ-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成	評価結果	
		
<ul style="list-style-type: none"> • 保育理念として「子どもの最善の利益を守る～一人ひとりの子どもたちが、自分を『かけがえのない存在』と感じ自信を持って生きて行かれるように～」、園目標として「心豊かな子」「健やかな子」「自分で考え行動できる子」、保育方針として「一人ひとりを大切に」「共に育つことを大切に」「共に育てる姿勢を大切に」を掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。保育室及び玄関に保育理念、保育方針が記載された運営規程を掲示するとともに、職員会議、カリキュラム会議、福祉員会議、アルバイト会議などで話し合い、確認しています。 • 保育課程は、園目標、基本理念、保育方針、保育姿勢に沿い、育児支援センターとしての役割、地域の状況などを考慮して作成しています。保育課程は年度末に職員会議で振り返りをし、作成しています。保護者に対しては、玄関に掲示するとともに、年度初めの保護者会で説明しています。また、保育室内に具体的なクラスの月のねらいとその内容を掲示し、保護者に周知しています。 • 保育課程に基づき、年齢ごとの指導計画を作成しています。保育士は子どもの姿をよく観察し、子どもの態度や表情、しぐさなどから子どもの気持ちを汲み取り、言葉にして返し、子どもの意向を確認しています。言語化できる子どもからは、子どもの話に丁寧に耳を傾け、意見・要望を聞いています。子どもの好きな絵本など、年間を通して活動に取り入れながら、子どもの興味や関心を指導計画に反映しています。 	<th data-bbox="1003 1198 1495 1245">評価結果</th>	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> • 入園初日にクラス担任が個人面接票を用い、新入園児全員の面談を実施しています。必要に応じて、看護師も面談しています。入園時に、児童票、個人面接票を保護者に記入してもらい、生育歴や家庭における子どもの姿、保護者の要望などを把握しています。把握した子どもの情報は記録して事務室の鍵のかかる棚に保管し、必要な職員が見ることができます。また、職員会議やクラスでの話し合いで情報共有しています。 • 入園説明会で短縮保育の意図を保護者に説明し、保護者と話し合い、子どもの様子や保護者の就労状況に応じた短縮保育を実施しています。0、1歳児は個別に主担当保育士を決めています。0、1、2歳児は連絡帳を用い、保護者と情報交換しています。送迎時には、保護者に声をかけ、子どもの様子について情報の共有を行っています。 • 進級にあたり、複数担任のクラスは一人が持ち上がるようにする、朝夕の福祉員を同じにするなどの配慮をしています。環境が大きく変わる2歳児は3月くらいから3歳児保育室やリズム遊びで交流を始め、卒園式後は3歳児保育室で過ごし、子どもが環境に慣れ、スムーズに新年度を始められるようにしています。 • 子どもの発達や状況に応じて、年間指導計画、月案、週案を作成しています。前月の子どもの様子を基に、クラスで話し合い月案を作成し、毎月の乳児・幼児会議、カリキュラム会議で確認しています。作成した計画は福祉員会議・アルバイト会議で報告し全職員で共有できるようにしています。指導計画には、行事後の保護者アンケートなどから出た保護者の意見も反映しています。保護者からの意見をもとに、幼児の発表会をお楽しみ会に変え、発表だけでなく親子で遊ぶ時間を設けたなどの事例があります。 		

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 園舎は築 30 年以上と古いですが、清掃マニュアル、清掃チェックシートがあり、それに基づき清掃が行われ、園の内外とも清潔に保たれています。保育室に温湿度計、空気清浄機、エアコンを設置し、温湿度の管理を行っています。 • 保育室は全て園庭に面し、掃出し窓となっていて陽光を十分に取り入れることができます。夏場には、グリーンカーテンやすだれ、遮光ネットを用い、陽射しを調整しています。 • 0歳児保育室に沐浴設備、幼児・乳児トイレ、乳児保育室前テラスに温水シャワーの設備があり、清掃マニュアル、トイレ清掃チェック表に基づき、管理や清掃が十分に行われています。 • 敷物や棚、衝立などを用いて保育室を仕切り、小集団で落ち着いて活動できるよう環境構成しています。仕切ったり、片付けてから布団を敷いたりなどの工夫をし、食べる・寝るの空間を確保しています。 • 異年齢児交流の場としては、ホール、廊下の絵本コーナー、テラスなどがあります。異年齢保育の年間計画を作成し、3、4、5歳児は異年齢のグループ（なかよしグループ）を作成し年間を通して活動しています。 	
評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 0、1、2歳児は、個別指導計画を作成しています。幼児についても、特別な課題がある場合には個別指導計画を作成しています。毎月のクラス会議、乳児・幼児会議、カリキュラム会議で子どもの様子について話し合い、目標や計画の見直しをしています。また、子どもの状況に変化があった場合には、その都度話し合いを持ち、柔軟に見直しをしています。 • 保育所児童保育要録を作成し、小学校に送付しています。 • 入園時に児童票、健康台帳、個人面接票に家庭の状況や要望を保護者に記載してもらっています。入園後の子どもの発達の過程は、児童票、健康台帳、経過記録に記録しています。子どもの記録は事務室の施錠できる棚に保管し、必要な職員は見るすることができます。進級時には記録だけでなく、進級担任の申し送りの時間を作り口頭でも伝達しています。 	

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。 • 毎月のカリキュラム会議や職員会議で個別のケースについて話し合っています。情報は記録し、事務室に置き、必要などときにはいつでも確認できるようになっています。また、健康面で配慮が必要な子どもの情報一覧、かかりつけ医のリストなどを作成し、共有しています。福祉員会議、アルバイト会議でも必要な情報を伝達し、皆が同じ対応ができるようにしています。 • 園舎はバリアフリーとなっていませんが、園庭やテラスのスロープ、トイレの手すりなどを整備しています。また、座位が安定するよう椅子に板を貼ったり、体格に合わせた足置き台を用意したり、テラスへの掃出し窓のサッシにカバーをかぶせたりと安全に過ごせるよう工夫をしています。 • 保護者の同意を得て、南部地域療育センター、保健師、子ども医療センターなどからアドバイスや情報を受けています。また、南部地域療育センターの巡回相談を受けています。巡回相談後は必ず保護者に報告するとともに、職員間でも情報共有しています。 • 横浜市や磯子区、南部地域療育センターなどの研修に参加した職員は研修報告書を記載するとともに、ミーティングや職員会議で報告しています。子どもの特性に合わせた絵カード、時計や予定表等、研修の成果が保育に活かされています。 • 虐待防止マニュアルがあり、園内研修で読み合わせ、職員に周知しています。虐待が明白になった場合、疑わしい場合、見守りが必要な場合には、保健師や南部児童相談所と連携する体制ができています。 • 虐待防止イベントに保育士が参加したり、毎月5日にオレンジTシャツを着用するなどの虐待防止周知のための取組を積極的に行っています。 • 子どものかかりつけ医から「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらい、除去食を提供しています。毎月、担任、調理職員、看護師が保護者と面談し、献立の確認をしています。毎日のミーティングで翌日の対応食の確認をするとともに、除去食提供時は、別の食器やトレイ、名札を用い、調理室と口頭で引き継いでいます。提供時には保育士間で確認をし、席も固定し傍に保育士がつくなどし、誤食を防いでいます。 • 宗教上の禁忌食の対応等、文化や生活習慣、考え方の違いを認め尊重しています。保育士は、連絡帳を用いたり、身振り手振りをつける、中国語で挨拶や会話を交わすなどして、保護者とのコミュニケーションを取るように努めています。お便りにルビをふる、園独自の文書（インフルエンザ、嘔吐下痢などの中国語版）を配布するなどしています。意思疎通が難しい場合には、通訳ボランティアを依頼する等、関係機関を利用する体制があります。また、国際ママの会や国政交流協会の相談コーナー等、横浜市や関係機関の情報提供をし、保護者が日本で安心して子育てできるよう支援しています。 	

評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 苦情受付担当者、苦情解決責任者は園長で、園内に掲示し保護者に周知しています。 • 第三者委員2名を定め、氏名と連絡先を入園のしおりに明記しています。また、第三者委員を保護者参加の行事に招き、園の様子を見てもらうとともに保護者に紹介しています。 • 玄関に意見箱をおいています。行事後にアンケートを行うとともに、年2回懇談会を実施し、保護者の意見を聞いています。保育士は保護者との信頼関係を築き、日々の会話の中から保護者の思いや要望を聞きだすよう努めています。 • 要望や苦情は迅速に対応し、ミーティングや職員会議にて職員間で共有できるようにしています。苦情の記録用紙をクラス日誌にはさみ、すぐに記載できるようにしています。記載された用紙は苦情記録としてファイリングし、データとして活用しています。 • 保護者から寄せられた要望や苦情で園全体に関することは、クラスノートやお便りで保護者にフィードバックしています。行事後のアンケートのフィードバック方法について同じ内容でも割愛せず全てを掲載してほしいという保護者の声で全部のコメントを掲載するようにしています。 	

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類Ⅱ－１ 保育内容【遊び】	評価結果
	<div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> • 手作りの人形やおんぶ紐、バッグ、スカートやままごと、ブロック、パズル等、おもちゃや教材は子どもたちが自由に取り出して遊べるように子どもの視線や動線に合わせた位置に配置されています。また、棚にはおもちゃなどの写真やイラストが貼られていて、子どもが片づけしやすいように配慮しています。 • 各保育室には年齢や発達に合わせて指先を使うおもちゃやクレヨン、紙、絵本などが用意されています。定期的におもちゃを入れ替えたり、遊びのコーナーを見直す等、発達に即した環境づくりがされています。0歳児室は遊びの部屋と食事の部屋を分けてあり、落ち着いて過ごせるように配慮されています。 • 子どもたちの自由な発想を受け止め、集団活動に取り入れています。普段の遊びが発展し、5歳児がお化け屋敷を計画し、子どもたちのアイデアを活かして準備を進め、ほかのクラスをもてなす遊びに発展しました。 • 散歩に出かけ、草木や花の色や香りを楽しんだり、虫を見つけたり、自然現象に触れたりしながら、四季が感じられる機会を積極的に設けています。また、出かけた先で出会う地域の人などと日常的に挨拶、会話を交わし、交流しています。 • 子どもの年齢や発達に応じて自由に表現できるように、体操やリズム運動、歌を取り入れています。一人が歌いだすと、自然にみんなが歌ったり、ダンスを始めたら、ダンスの輪ができたり、自由に表現しています。 • 園庭をL字型に囲む平屋の園舎なので、テラスや園庭で自然な異年齢の関わりが持っています。また、幼児クラスは年間を通して「なかよしグループ」の異年齢交流を行い、関わりを深めています。 • 縄跳び、フープ、ボール等、体を動かす道具やおもちゃがいつでも遊べるように手の届くところに置いてあります。また巧技台、三輪車、タイヤなどを使い発達に合わせた遊びをしています。また、年間を通して行われているリズム運動は発達に応じたプログラムが組んであります。
評価分類Ⅱ－１ 保育内容【生活】	評価結果
	<div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> • 楽しく食事することを第一に考え、子どもの好みや体調にも考慮し、適量を配膳しています。残すことを叱ったり、無理に食べさせることなく、それぞれの子どもの食べるペースを大事にし、0歳児は保育士が一对一で対応しています。 • 子どもたちが栽培した野菜を給食の食材に使用したり、自分たちでクッキングして食べています。食育集会では出汁の味を感じたり、蒸す、焼くなどの調理方法を体験したりし、そのことで色が変わったり形状が変わったりする食材の持つ不思議さを感じたり、調理に興味や関心を持つように取り組んでいます。また、食育担当の職員が作った食育ソングに合わせて子どもたちが考えた体操を楽しんだり、食育のキャラクターを作ってお話しづくりに発展したりしています。 • 子どもの成長・発達に応じた食器・スプーンなどを使用しています。また、テーブルの高さ、椅子の大きさ、椅子の下の足置きを作る等、それぞれの子どもに合わせた工夫をしています。 • 調理職員は毎日クラスを訪れ、食べている様子を見ながら、子どもの声を聞いています。また、残食などは給食日誌に記録され、献立づくりや調理方法の工夫に反映させています。 • 毎日の給食のサンプルは調理室横に展示され、人気レシピのカードを置いています。園だよりにより調理担当が食についての情報を記載し、保護者が食事に対する関心を持てるように配慮しています。 • 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごせるように配慮しています。また、早く目覚めた子どもは、眠っている子どもと違うスペースで過ごせるように工夫しています。 • 一人一人の排泄のリズムを大事にし、個人差を尊重して、家庭と連携しながらトイレトレーニングを行っています。乳児は個人の連絡帳で排泄の状況等、家庭と共有しています。幼児は普段と違う様子場合は直接または連絡帳・連絡メモ用紙にて健康状態や排泄の状態を伝えています。

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【健康管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・「健康管理マニュアル」「感染症への対応マニュアル」があります。 ・乳児は個人日誌と受け入れ時の視診があり、幼児は受け入れ時の視診と夏場は「健康管理表」で体調を把握しています。また、看護師が毎日朝・昼・夕巡回し、健康状態の把握や欠席児の情報を集め記録しています。 ・食後の歯磨き指導をしています。歯の磨き方のイラストを貼ったり、落ち着いて磨けるよう椅子を置いたり、発達を踏まえた関わりの中で進められています。 ・健康診断・歯科健診の結果は「健康の記録」に記載し、歯科健康診断結果のお知らせを配布し、保護者に伝えています。結果について心配なことがある場合などは、看護師が相談を受けて対応しています。 ・入園説明会にて感染症対応・登園停止期間・登園届・登園許可書について説明しています。感染症が発生したときは、速やかにホワイトボードにその日の感染状況などを記入し保護者に知らせています。また、横浜市から「感染症情報」の発信があり、掲示して保護者に周知しています。 	
評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【衛生管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルがあり、マニュアルの見直しは随時行っています。マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的に研修を実施しています。 ・マニュアルに基づき、保育室やトイレ、調理室などが清掃されていて、清潔で適切な状態が保たれています。 	
評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 【安全管理】	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> ・「安全管理マニュアル」があります。 ・地震対策として、棚や下駄箱、タンスなどは転倒防止対策を行っています。 ・毎月地震・火災を想定した避難訓練を実施し、メーリングリストによる保護者への伝達訓練も行っています。 ・消防署と連携して救急救命研修を行われ、職員が参加しています。 今年度はAEDを設置したこともあり、保育園で園児・保護者・職員が集会形式で心肺蘇生法や誤飲の対応方法について、実地訓練を行う予定にしています。 ・子どものケガについては、連絡帳に記載し、福祉員または保育士・園長が直接保護者へ報告をしています。日誌、ヒヤリハットまたは事故報告書に記録し、ミーティングなどで職員に周知しています。また、再発防止の検討が行われ、改善策が実行されています。 ・防犯訓練計画が設定されており、日中は隔月に1回、時間外は年に3回、不審者対応訓練を行っています。民間警備会社と24時間体制で契約し、非常時に即時通報できるシステムになっています。また、散歩に出るときは、警備会社の通報装置と緊急連絡用の携帯電話を携帯するようにしています。 ・門扉は電気錠があり、開錠の際はインターホンのモニターで顔と名前を確認するなどを行っています。保護者アンケートでは不審者対策について不安の声があがっています。今後さらなる改善が望まれます。 	

評価分類Ⅱ－3 人権の尊重	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 子どもたちに威圧的な言葉遣いをしたり、無視をすることがないように、保育活動中に気になる対応が見られたときには、保育士一人一人が振り返りを行えるよう会議で話し合いを行っています。 • 子どもたちには分かりやすい言葉で話し、声のトーンにも気をつけています。せかしたり、強制することなく、子ども本人のペースを大事にしています。 • 保育室の収納スペースの下の空間やコーナーを工夫して、衝立を使用する等、友達や保育士の視線を意識せずに過ごせる場所がつけられています。 • 守秘義務の意義や目的を職員やアルバイト、ボランティア・実習生に周知しています。 • 個人情報に関わるものは、事務室の施錠できる棚に保管、管理しています。 • 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていません。また、ジェンダーフリーの研修に参加した職員が園内研修を行い、職員全体で学ぶ体制があります。 	
評価分類Ⅱ－4 保護者との交流・連携	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> • 園だより、クラスだより、クラスノートにはその月のねらいがわかる内容の保育実践記録を載せるなど、保育の内容とつなげて記載し、園の保育方針が保護者に理解されるようにしています。 • 乳児クラスは連絡帳があり、幼児クラスでも必要に応じて連絡帳や連絡用紙を用いて、こまめに保護者と情報交換を行っています。 • 保護者からの相談は、適切に対応できるように内容によっては、複数の職員で対応しています。また、職員が臨床心理士に相談できる仕組みができています。相談内容は記録し、職員間で情報共有しており、継続的なフォローができるようにしています。 • 年間行事予定表であらかじめ日時を知らせ、再度、園だよりや掲示物で周知する等、保護者が保育参加の予定をたてやすくなるよう配慮しています。 • 保護者会や保護者総会、卒園に向けての話し合い等、必要に応じて保育室を提供しています。 • 個人面談は新入園児と5歳児は必ず行い、そのほかのクラスは、希望があれば随時行うようにしています。保護者アンケートにもありましたが、今後はどのクラスも、保護者が参加しやすくなるよう、個人面談期間を設けるなどの工夫が望まれます。 	

評価領域Ⅲ 地域支援機能

<p>評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対する育児講座、交流保育、育児相談、給食体験などの開催時に、アンケートを実施し、感想・要望・意見を聞き、地域の子育てニーズを把握しています。 ・育児支援担当の保育士を中心に園庭開放・ホール開放・交流保育・一時保育・給食体験・プレママパパ体験・育児相談・赤ちゃん教室・ワイワイルーム・身体測定・絵本貸出しなどを行っています。 ・歯科衛生士による「歯磨き指導」、保育士による「運動遊び」、栄養士・看護師による「乳幼児食とアレルギー」、調理師・看護師による「離乳食講座」等、地域住民に向けた育児講座が年間 10 回ほど開催されています。 	
<p>評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談は随時(電話・来園・育児支援訪問時)受け付けています。また、育児支援年間予定表、育児講座のパンフレットを作成し、園舎外の掲示板に掲示したり、講座のチラシなどを関係機関に置いたり、散歩先で手渡す等、情報提供を行っています。 ・南部児童相談所・南部地域療育センター・磯子区の福祉保健センター等、必要な関係機関、地域の団体などとは、日々連携を取っており、日常的に相談しやすい関係づくりができています。 	

評価領域Ⅳ 開かれた運営

<p>評価分類Ⅳ－1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・年長児が地域の公園愛護会の方と一緒に毎月1度、公園清掃を行っています。また、地域のイベントに子どもたちの作品を提供したり、地域のお祭りや行事に参加しています。 ・園のホール（コスモス広場）を保健師が行う子育て支援事業「ママ会」の会場として貸出しています。また、近隣保育施設に遊具・絵本・教材の貸出を行っています。 ・公園に出かけ、そこで出会った地域の方々とふれあいを大切にしています。年長児が地域の商店街に行き、給食食材の買い物をしたり、地域の高齢者に宛てた年賀状を郵便局に出しに行く等、地域と積極的にふれあいを持つようにしています。 ・5園交流（近隣保育園交流）で、「こうめ杯」というドッジボール大会を行い、5歳児が参加しています。また、幼保小交流も定期的に行っています。 	
<p>評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市と磯子区のホームページや広報で、園の情報を提供し、磯子区役所・洋光台地域ケアプラザ・地域子育て支援拠点・磯子区社会福祉協議会・近隣の病院にパンフレットを置いています。 ・園の基本方針や利用条件・サービス内容などの問い合わせに対しては、パンフレットを用意し、常時対応しています。 ・見学日を設定して対応しています。見学日以外でも希望者の意向を聞いて、時間や日程の調整を行い、対応しています。 	
<p>評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ</p>	<p>評価結果</p> 
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生の受け入れのためのマニュアルがあります。オリエンテーションで、園の方針や配慮すること、守秘義務などを説明しています。 ・ボランティア・実習生の受け入れにあたり、保護者には受け入れの趣旨や保育園の役割を入園説明会、懇談会で説明し、また日程などを園だよりやクラスだよりで知らせて、理解されるようにしています。 ・ボランティアの感想や意見から、体験時間の工夫や環境設定などについて、園の運営に反映させています。 ・実習の最終日には反省会を行い、実習生と関わった職員や園長が意見交換をしています。自信につながるアドバイスをし、励ましの場となるようにしています。 	

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

<p>評価分類V-1 職員の人材育成</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 横浜市の人材育成ビジョン、横浜市保育士人材育成計画に基づき、人材育成に取り組んでいます。 • 職員は年度初めに目標共有シートを作成して自分の目標を定め、年度末の自己評価で達成度を評価しています。園長は、年2～4回個別面談を行い、目標設定や中間進捗状況、達成度の振り返りと確認をしています。 • 研修担当は主任で、個々の職員の経験や役割、能力、希望などを考慮し、研修計画を作成しています。 • 主任をリーダーとした園内研修担当者が園内研修の内容を決めています。園内研修としてエピソード研修（何に重点を置いて日誌を書くかの事例検討会）、遊びの研修などが行われています。また、全職員を対象とした、嘔吐物対応、アレルギー、救命救急法、エピペンの使い方、AEDの使い方などの内部研修も実施しています。外部研修としては、横浜市や磯子区、南部地域療育センターなどが主催する研修に積極的に参加しています。外部研修に参加した職員は研修報告書を提出するとともに、ミーティングや職員会議で報告しています。 • 業務にあたっては、必ず正規職員と非常勤職員が組み合わせて職員を配置しています。非常勤職員は、福祉員研修、アルバイト職員研修、磯子区の人権研修に参加しています。 • 非常勤職員の指導担当は主任で福祉員会議、アルバイト会議を調整する等、常にコミュニケーションを取っています。福祉員会議、アルバイト会議では、カリキュラム会議の報告や事務連絡などを行い情報共有を図っています。毎日のミーティングにはアルバイト職員も参加しています。 	
<p>評価分類V-2 職員の技術の向上</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 職員は、目標共有シートを用い年度初めに目標を設定し、年度末に自己評価しています。また、市立保育所の様式を参考にして、保育所としての自己評価を実施しています。 • 磯子区の公立園4園で、園長や職員がお互いにほかの園の環境を見合う安全点検の巡視や合同で行う主任研修の中で企画した研修報告会があり、他園の事例を職員会議やミーティングで報告し、改善につなげています。取り入れた事例としては、子どもの動線を考えた帽子のかけ方や物の置き方などがあります。また、南部地域療育センターの巡回相談があり、アドバイスを受けています。 • 園内研修として、福祉員が日中のクラスの保育に入ったり、年度末に保育士が新しいクラスを交換して担当する機会を作り、お互いに意見や感想を伝え合うことで、互いの保育を見直す機会を作っています。 • 年間指導計画や月案、保育日誌には、自己評価の欄があり、定型化されています。自己評価は、計画で意図したねらいに沿って行い、振り返り、結果を次の計画作成に活かしています。 • 保育士の自己評価をもとに、カリキュラム会議や職員会議で報告、話し合い、保育所としての課題を明らかにし、改善に向けて取り組んでいます。また、年度末に保護者アンケートを実施し、結果を基に課題を取り上げ、話し合っています。保育所としての自己評価は保育方針と保育目標に沿って行い、課題と取組状況を評価し、次年度の課題・検討事項などを明らかにしています。自己評価は保育室に掲示し、保護者に公表しています。 	
<p>評価分類V-3 職員のモチベーションの維持</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 横浜市人材育成ビジョン、横浜市保育士人材育成計画に経験や能力、習熟度に応じた役割が期待水準として明記されています。 • 運営業務分担表を作成して、個々の職員の運営担当業務を決め、可能な限り権限を委譲しています。 • 園長は年2～4回面談を実施し、職員の満足度や要望を聞いています。 	

評価領域VI 経営管理

<p>評価分類VI-1 経営における社会的責任</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 横浜市職員行動基準があり、全職員に配付されています。他施設の不適切な事例等の情報を得た時には、その都度職員会議で報告し、それらの行為を行わないよう啓発しています。職員はコンプライアンス研修を受講しています。研修ではチェックシートを用い、自己点検しています。 • ゴミの分別やりサイクルのための取組としては、ゴミの分別を子どもと一緒にしています。また、廃材を製作の素材として用いたり、手作りおもちゃを作ったりしています。緑化の推進としては、ゴーヤ、へちま、朝顔などのグリーンカーテンを作っています。 • 資源循環局による環境教室を実施し、子どもたちがゴミの分別やりサイクルについて理解できるようにしています。年長児が近隣公園のゴミ拾いを地域の公園愛護会と一緒にしています。 • 入園のしおりにエコ活動について記載しています。環境計画を作成し、園の環境への取組の目的や活動を明文化しています。 	
<p>評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 保育理念・基本方針を記載した運営規程を玄関と保育室に掲示しています。園長は、職員会議やカリキュラム会議、ミーティングなどで理念や基本方針を取り上げ、職員が自分の言葉で説明できるように指導しています。職員は、カリキュラム会議や乳児・幼児会議で保育の内容が保育理念や基本方針に沿っているかを振り返り、話し合っています。また、園長、主任は指導計画や日誌に目を通し、職員が理念や基本方針を理解しているか確認し、必要に応じて指導しています。また、園長面談でも確認しています。 • 保育園の改装など重要な意思決定にあたり、園長は保護者会役員会と継続的に意見交換し、お便りや保護者会総会、保護者参加行事などで保護者に説明しています。別途説明会を開催することもあります。 • 園内研修、健康管理、個人情報管理、食育担当などの運営業務分担が決まっています。常にチームで検討する仕組みがあります。チームには保育士、看護師、調理職員、アルバイト等、異なる職種や年代の職員で組むように編成しています。食育担当では、保育士と調理職員がチームとなり、企画から実践したことを磯子区の主任研修にて発表しました。 • 横浜市では主任育成のプログラムが実施されています。磯子区市立保育園主任研修を立ち上げ、スーパーバイズのできる主任を育成しています。次のリーダー育成のため、主任をサポートするフリー保育士およびリーダー保育士を置いています。 • 主任はフリーの立場で保育室を回り、個々の職員の業務状況を把握しています。主任は職員とのコミュニケーションに努め、個々の職員が精神的、肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう配慮しています。 	
<p>評価分類VI-3 効率的な運営</p>	<p>評価結果</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> • 園長は園長会をはじめ、横浜市や磯子区の各種会議に出席し、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。また、研修資料や保育雑誌、新聞などからも情報収集しています。 • 重要な情報はリーダー会議で報告し、重点改善課題として設定し、職員会議やミーティングで職員に説明し、園全体の取組としています。子ども・子育て支援新制度への移行に伴う変更などは職員に分かりやすく説明し、戸惑いや不安を抱かないようにしています。 	



利用者家族アンケート分析

【実施概要】

- 実施期間：平成27年11月16日～11月30日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に直接郵送してもらった。
- 回収率：配付103件、回収59件、回収率57.3%

★文中の「満足」「満足度」は「満足」と「どちらかと言えば満足」の回答を合計した結果、「不満」は「不満」と「どちらかといえば不満」の回答を合計した結果です。

【結果の特徴】

- 園の保育目標や保育方針については、「よく知っている」(5.2%)、「まあ知っている」(46.6%)と答えた保護者の割合は合わせて51.8%、「どちらともいえない」と答えた保護者が25.9%、「あまり知らない」(17.2%)、「まったく知らない」(1.7%)と答えた保護者が合わせて18.9%でした。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の中で、「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えた保護者は合わせて93.9%となっています。
- 項目ごとの設問の中で比較的満足度が高いのは
 - 「子どもが戸外遊びを十分にしているか」「お子さんが大切にされているか」の96.6%
 - 「費用やきまりに関する説明」「お子さんが保育園生活を楽しんでいるか」の94.9%
 - 「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」の93.2%
 - 「保育園の一日の過ごし方についての説明」「クラスの活動や遊び」「自然に触れたり、地域に関わるなどの活動」「遊びを通じた友達や保育者との関わり」「お子さんの体調への気配り」の91.5%です。
- 不満度が比較的高いのは
 - 「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」の43.3%
 - 「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「送り迎えの際の情報交換」の23.7%です。
- 「アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮」については満足度が67.7%と低いですが、その他(22%)と無回答(8.4%)を合わせて30.4%となっています。
- 設問ごとでは問4「日常の保育内容について～遊び～」が全ての項目が88%以上、平均で91%と満足度が高くなっていて、保護者が子どもの様子を見て満足していることが分かります。
- 総合的な満足度は、「満足」が52.5%、「どちらかといえば満足」が42.4%で合わせて96.9%の高い満足度となっています。
- 自由意見欄には、「安心して仕事に行ける」「大変助かっています」などの感謝の言葉が複数あります。一方、「建物の老朽化が気になる」「個人面談をやってほしい」「セキュリティが不安」「先生によって対応が異なる」など様々な意見が寄せられていて、保護者の関心の高さがうかがわれます。

横浜市洋光台第二保育園 利用者家族アンケート集計結果

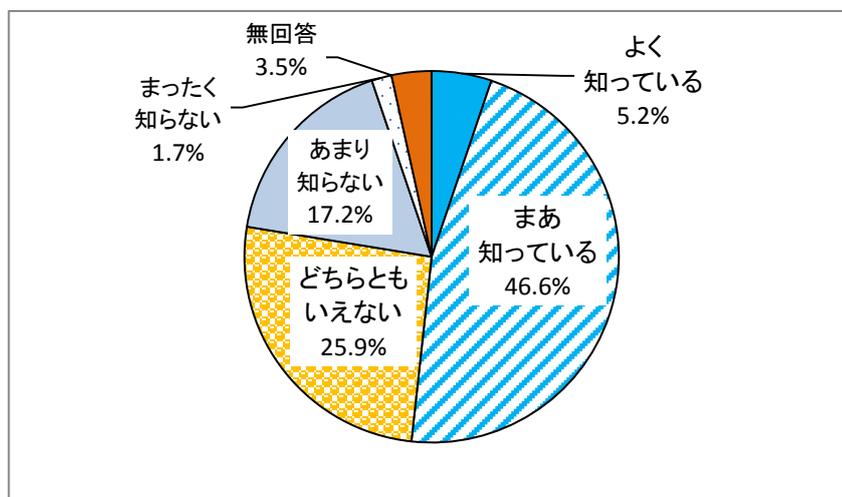
実 施 期 間	平成27年11月16日～11月30日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	103 件
有 効 回 答 数	59 件
回 収 率	57.3 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	6	8	11	15	13	5	1	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

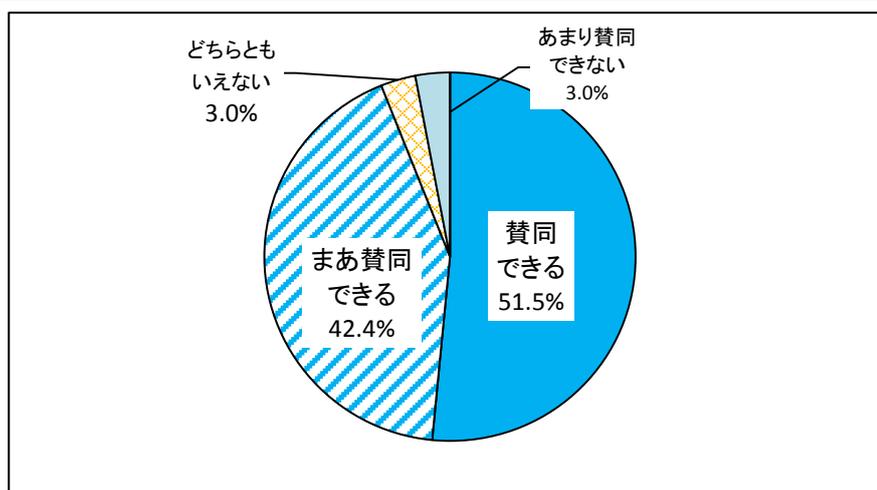
問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	5.2	46.6	25.9	17.2	1.7	3.5	



1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
	51.5	42.4	3.0	3.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	40.7	42.3	0.0	0.0	15.3	1.7	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	27.1	61.0	8.5	0.0	3.4	0.0	
園の目標や方針についての説明には	30.5	59.3	6.8	0.0	3.4	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	44.1	44.1	10.2	0.0	1.7	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	44.1	47.5	6.8	0.0	1.7	0.0	
費用やきまりに関する説明については	37.3	57.6	5.1	0.0	0.0	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	39.0	44.1	10.2	3.4	0.0	3.4	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	22.0	49.2	13.6	3.4	6.8	5.1	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	61.0	30.5	3.4	0.0	1.7	3.4	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	78.0	18.6	0.0	0.0	0.0	3.4	
園のおもちゃや教材については	59.3	30.5	3.4	1.7	0.0	5.1	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	59.3	32.2	3.4	1.7	0.0	3.4	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	54.2	37.3	3.4	0.0	0.0	5.1	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	46.6	41.4	5.2	0.0	3.4	3.4	

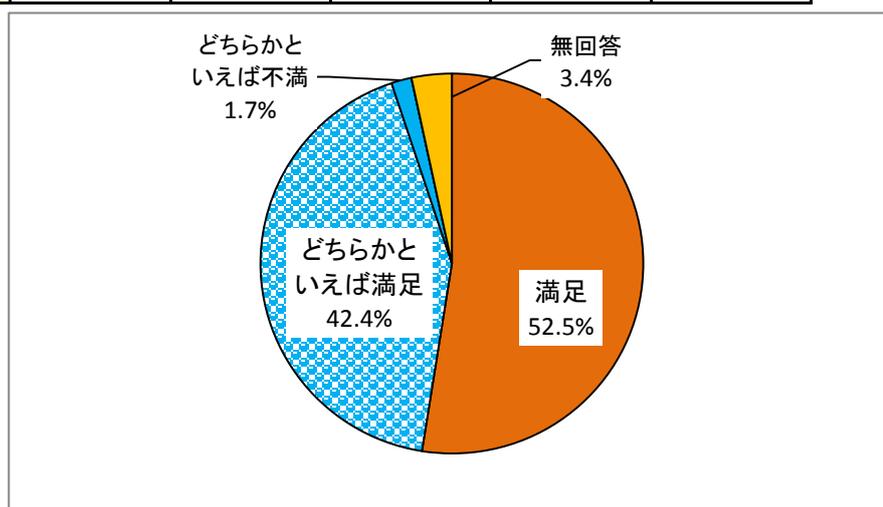
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	62.7	25.4	8.5	0.0	0.0	3.4	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	57.6	30.5	3.4	0.0	3.4	5.1	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	62.7	30.5	1.7	1.7	0.0	3.4	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	42.4	45.8	3.4	3.4	1.7	3.4	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	49.2	28.8	8.5	0.0	10.2	3.4	
お子さんの体調への気配りについては	47.5	44.1	3.4	0.0	1.7	3.4	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	45.8	33.9	11.9	3.4	1.7	3.4	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	23.7	52.5	10.2	6.8	1.7	5.1	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	37.3	52.5	3.4	3.4	0.0	3.4	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	30.5	27.1	30.5	6.8	1.7	3.4	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	37.3	44.1	11.9	3.4	0.0	3.4	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	30.5	47.5	13.6	1.7	1.7	5.1	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	49.2	40.7	3.4	3.4	0.0	3.4	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	39.0	33.9	18.6	5.1	0.0	3.4	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	25.4	49.2	18.6	5.1	1.7	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	32.2	52.5	6.8	1.7	3.4	3.4	
保護者からの相談事への対応には	40.7	45.8	5.1	5.1	3.4	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	35.6	49.2	13.6	1.7	0.0	0.0	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	52.5	44.1	1.7	0.0	0.0	1.7	
あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	66.1	28.8	1.7	0.0	1.7	1.7	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	38.9	28.8	0.0	1.6	22.0	8.4	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	49.2	40.7	6.8	0.0	1.7	1.7	
意見や要望への対応については	37.3	44.1	11.9	1.7	3.4	1.7	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	52.5	42.4	1.7	0.0	3.4	





利用者本人調査

【実施概要】

■実施日時：平成 28 年 2 月 8 日、2 月 9 日

■実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

●0歳児クラス

公園では、散歩中の犬を近くで見たり、青空に小さく見える飛行機やヘリコプターを指さしたり、砂を触ったり、歩いたり、はいはいで移動したり、あちらこちらで思い思いに遊びます。保育士は危険のないように見守り、子どもたちの遊びたい気持ちを優先させています。園に戻ると、手を洗い、おむつやズボンを着替えさせてもらい、さっぱりして遊びます。お気に入りの曲がかかると、子ども同士手をつないで歩いたり、曲に合わせて体を揺らしたり、どの子どもも楽しそうです。お気に入りのタオルをほしいとロッカーを指さした子どもには取り出して渡します。眠くなった子どもは布団を出して食事前に 15 分ほど眠ります。それぞれの食事の時間を大事にしているので、食事専用に使っている小部屋で順番に食べます。遊ぶ部屋と別にあるので、どの子どもも保育士に見守られゆったりした雰囲気の中で落ち着いて食べています。あとで食べる子どもたちは絵本を読んだり、おもちゃで遊んで待っています。

●1歳児クラス

園庭でたっぷり遊び保育室にもどります。泥だんごを持って入りたいという子どもには、気持ちを聞いて皿に載せて保育室の前のテラスに置きます。手洗い、うがいを保育士が一人ずつ丁寧に指導します。体を洗う話のエプロンシアターを見ます。子どもたちは集中して見えています。スズランテープで作ったシャワーがついていて、最後に子どもたちにかけるとみんな大喜びしています。食事の時間です。テーブルの高さ、椅子の大きさ、椅子の下の足置き等、それぞれの子どもに合わせてあります。アレルギー食の子どもは別のテーブルです。一人ずつ名前を呼び、一言かけてエプロンを渡します。スプーンの持ち方も上手で意欲的に食べています。保育士はすくいやすいようにおかずを集めたり、手を添えるなどの援助を行うことで、子どもたちはほとんど残さず食べます。パジャマに着替え、紙芝居を見てから布団に入ります。自然に眠ってしまう子どもやさすってもらい眠る子どもがいます。なかなか布団に入れない子どもも無理に誘うことなく、眠りたい気持ちになるのを待ちます。

●2歳児クラス

朝のおやつが終わった子どもたちは、おむつのとれていない子どももトイレに行きます。ズボンの着脱は保育士がそばにいますが、ほとんど自分たちでしています。それから自由に遊びます。友達と顔を寄せ合って絵本を読んだり、一人で黙々とブロックで飛行機を作ったり、3人でブロックを高く積んでは崩す、を楽しむ子どもたちもいます。色水の入ったペットボトルでジュース屋さんやお人形をおんぶしてままごとをしたり、保育士の膝で絵本を読んでもらったり、それぞれがおしゃべりしながら好きな遊びを楽しんでいます。調査日に誕生会が行われました。部屋を片付け、0歳児1歳児と一緒に歌に合わせて鬼の出でくるお話やパネルシアターを楽しみました。食事中に調理担当の職員が見にきました。子どもたちから、「先生、おいしいよ～」と声をかけます。「見て～！」と食べっぷりをみてもらおうといそいで口いっぱい頬張る姿も見られます。時に保育士に手伝ってもらいながら、残さず食べています。

●3歳児クラス

テラスで靴下・靴を履き、帽子をかぶり、元気に園庭に飛び出して行きます。ゆっくり支度をする子どももいますが、せかされることなく、自分のペースで準備しています。砂場でままごとをしたり、山を作ったり、かけっこ、フープを使って電車ごっこ、戦隊モノなどそれぞれ好きな遊びをしています。「お花に水をあげましょう」という保育士の声に5、6人がじょうろを持って集まります。水を入れてもらい、「いちご、早く食べたいね。」等、話しながら、プランターの野菜や花に水やりをします。

遊びの途中、言い合いになっている2人がいます。保育士は手をつなぎ、ゆっくりそれぞれの話を聞いたあと、2人でもう一度話し合うのを見守ります。2人は納得して仲直りし、すぐに一緒に走りだしました。食事のテーブルには小さなカップに花が飾ってあります。今日のメニューは鶏肉入りの五目豆です。「フォークも使っていいよ」と保育士は言いますが、頑張っって箸を使い「つかめた〜」「見て〜」と子どもたちは得意気に見せています。食後は水道前の所定の席で歯磨きをし、仕上げ磨きをしてもらいます。

●4歳児クラス

朝の誕生会のあと、ホールに残って遊びます。2人組で伝承遊びの「お寺の和尚さんが…」をします。負けた子は「一本橋こちょこちょ」をされて、くすぐられ床に転がって笑っています。相手を替えて遊びます。次は輪になって「むっくりくまさん」です。次々にくまが増えるので、子どもたちは大騒ぎ、広いホールを走り回り、とても楽しそうです。2グループに分かれて「はないちもんめ」をします。相談する場面では保育士が入らなくても話がまとまり、すぐに決めています。そのまま2グループで「糸車」をします。子どもたちは楽しくて仕方がない様子でどの子も声をあげて笑っています。30分ほど遊んだあと、園庭に出ます。水を飲んだり、トイレに行ったりするタイミングはそれぞれの子どもに任せてあります。保育士が地面に水でドッジボールのコートを描くと、数人の子どもたちがさっそく始めます。子どもたちだけでルールを話したりしながら、食事になるまで続けました。先週行われた5歳児が参加したドッジボール大会を応援し、次は自分たちだ！と意気込んでいるようです。

●5歳児クラス

今日は軍手をして地域の方々と公園清掃の日です。落ち葉を集め、袋に入れます。清掃のあと、前日に相談して決めていたしっぽ取り、手つなぎ鬼をしたり、斜面を一気に駆け下りたり、元気に遊んだあと、園に戻ります。地域ケアプラザの高齢者へのプレゼントを作ります。以前訪問して一緒にダンスをしたことがとても楽しかったので、子どもたちから、お礼に何かプレゼントしたい、と意見が出て、みんなで相談した結果、マラカスを作ってプレゼントすることになりました。どのように作れば喜んでもらえるか、話し合い、ペットボトルにどんぐり、風船カズラとひまわりの種を入れ、外側は花や笑顔の絵を描くことになりました。にぎやかにおしゃべりしながらも、どの子どもも真剣に取り組み、楽しそうです。保育士も「もらったら嬉しいね」「かわいいね」など声をかけています。できあがったマラカスを振って踊りだす子どももいます。高齢者と一緒に歌う予定の歌をみんなで自然に歌い出していました。



事業者コメント

第三者評価受審にあたり、春よりいくつかのグループで項目ごとの自己評価を行い、工夫事例や課題をあげリーダー職員を中心にまとめていきました。中でも園目標・保育理念についての話し合いは、約50名の職員が、目指すこども像を語り、互いの保育観をたっぷり出し合う貴重な時間となりました。同時に課題解決に向け園内研修での学びやマニュアルの改定および見直し、環境の改善も行いながら進めていきました。

総合の評価の中で高く評価できることとして、3項目を挙げて頂きました。

1. 子どもたちはさまざまな経験を重ね、のびのびと園生活を楽しんでいます。
2. 自己の保育を振り返る様々な取り組みがあり、保育に活かされています。
3. 地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます。

日々のありのままの保育を見て頂きましたが、こどもたちののびやかな遊びや生活の姿を評価して頂き、嬉しく感じました。また、育児支援センター園として十分な機能を果たしていることも実感できました。

独自に取り組んでいる点として、食育活動が挙げられ、今後も継続して保育の中心となる取り組みとして楽しみながら行っていきたいと思えます。

工夫点として、保育の情報発信が十分に伝わっていない課題が挙がりました。表示の工夫やわかりやすく伝える努力が必要であることなど、知ることができたことは大きな収穫となりました。

お忙しい中、アンケートにご協力いただきました保護者の皆さま、そして評価機関関係者の皆さまには大変熱心に誠実に取り組んで頂きまして、心より感謝いたします。日々の保育に追われることなく、皆様の声に迅速にお応えできるよう努力していきたいと思えます。そして常に子どもがのびようとしている思いを大切にする保育をこれからもしていきたいと思えます。

洋光台第二保育園職員一同

福祉サービス第三者評価 評価機関

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号
横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号
横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01
全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 認証番号 2510-002-02

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター
〒231-0013 横浜市中区住吉町 2-17 金井ビル 201 号室
TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118
<http://www.yresearch-center.jp>

